

第 38 回ユネスコ世界遺産委員会について（概要）

平成 26 年 7 月 10 日
文化庁記念物課
世界文化遺産室

1. 開催概要

期間：2014 年 6 月 15 日～6 月 25 日
場所：カタール ドーハ

2. 文化庁からの出張者

青柳長官、山下文化財部長、北山世界文化遺産室長
西文化財調査官、鈴木技官、齋藤係長
稲葉筑波大学大学院教授、二神東京文化財研究所室長

3. 主な審議結果

(1) 世界遺産一覧表への記載に係る審査

登録候補 41 件のうち 5 件の取り下げがあった。そのため 36 件（うち 4 件は拡張申請） について審議がなされ、「富岡製糸場と絹産業遺産群」を含む 26 件（文化遺産 21 件、自然遺産 4 件、複合遺産 1 件） を新たに登録することが決定した。

この結果、世界遺産は 1007 件（文化遺産 779 件、自然遺産 197 件、複合遺産 31 件） となった。

(2) 資産の保全状況に係る審査

今回の委員会では、141 件（うち 44 件は危機遺産） が保全状況審査の対象となり、このうち、諮問機関、世界遺産センターによる判断、あるいは委員国からの要請に基づき特に議論を要するとされた 38 件（うち 21 件は危機遺産）について、委員会での審議が行われた。

この中で議論された内容としては、全般的な管理体制・法的保護の不備の他、①武力衝突に関わるもの（例：マリ及びシリアの危機遺産）、②資産近隣における開発行為に関わるもの（都市部における近隣の開発に関わるもの（例：ウェストミンスター寺院等／イギリス）、港湾部における商業開発に関わるもの（例：バルパライゾの海港都市の歴史的街並み／チリ））、③橋梁・道路建設等のインフラ整備に関わるもの（例：コトルの自然と文化-歴史地域／モンテネグロ）、が挙げられる。

また、保全状況報告の世界遺産委員会での審査に先立って締約国、世界遺産センター、諮問機関という関係者間で内容確認や追加情報要請などを行う時間を確保するため、保全状況報告（2年後の委員会での審査を行う場合）の標準提出期限を現行の 2 月 1 日から 2 か月前倒しして前年の 12 月 1 日と

することが決定された（危機遺産案件や緊急案件を除く）。これにより、今後、2年後の審査が行われる保全状況報告の準備期間は、従前の約1年8ヶ月から約1年6ヶ月に短縮されることになる。

（3）危機遺産一覧表の更新

世界遺産一覧表記載に係る審査及び保全状況に係る審査における審議の結果、3件の資産が新たに危機遺産一覧表に追加され、1件の資産が解除された。

この結果、危機遺産は46件（文化遺産27件、自然遺産19件）となった。

○危機遺産一覧表に追加された資産（3件） <資産名称は仮訳>

- ・オリーブとワインの地パレスチナ - エルサレム地方南部バティの文化的景観（パレスチナ・文化）
※緊急的登録推薦案件として審議され、世界遺産一覧表への記載と同時に危機遺産リストに追加。
- ・ポトシ市街（ボリビア・文化）
- ・セルウス狩猟保護区（タンザニア・自然）

○危機遺産一覧表から解除された資産（1件） <資産名称は仮訳>

- ・キルワ・キシワニとソンゴ・ムナラの遺跡群（タンザニア・文化）

（4）「遡及的な顕著な普遍的価値の言明」の承認

2010年の第34回世界遺産委員会においてアジア・太平洋地域について実施された定期報告時に、「顕著な普遍的価値の言明（SOUV、Statement of Outstanding Universal Value）」が登録時の決議に盛り込まれていない資産（1978年～2006年に登録された資産）について、「遡及的な顕著な普遍的価値の言明（RSOUV、Retrospective Statement of Outstanding Universal Value）」を作成することが決議された。

これに基づき、我が国もRSOUVの案（文化遺産と自然遺産あわせて13件）を提出し、世界遺産センターや諮問機関との調整を行っていた。

今回の委員会では全127件のRSOUVが承認された。うち我が国については、昨年までに承認が行われなかった「白川郷・五箇山の合掌造り集落」「原爆ドーム」「古都奈良の文化財」「琉球王国のグスク及び関連遺産群」のRSOUVが承認され、これにより我が国の文化遺産は全て、SOUVを備えることとなった（自然遺産については昨年までに全て承認済み）。

（5）その他

（イ）ユネスコの外部監査評価における勧告事項のうち、委員国の利益相反に関わる2勧告（委員国としての任期中の新規推薦の提出や審議停止、自国内物件の保全状況に関する決定への参加）についてはこれまで実施されておらず、昨年締約国総会で本件が問題となり、第38回世界遺産委員会で再度議論することとされていた。

事務局は本件について決議案を作成せず、小規模なワーキンググループ（我が国も参加）において決議案が作成された上で委員会に諮られ、結果として、「委員国任期中の新規案件の推薦提出については、世界遺産未保有国を除き、自粛することを「強く奨励する」(strongly encourages)」ことが決議された。

なお、自国内物件の保全状況に関する決定への参加については、第39回世界遺産委員会でワーキンググループを設置し、議論されることとなった。

(ロ) 今回委員会の議題8B（世界遺産一覧表への推薦）において、諮問機関より「記載延期」「情報照会」勧告が出されていた資産の多くが、審議の結果「記載」となった（「記載延期」「情報照会」となった資産16件のうち、11件が「記載」）。また、「情報照会」勧告において現地調査受入れが要請されるなど、作業指針で想定されていない手順とされた例が見受けられた（例：バロツェの文化的景観／ザンビア）。

これを受けて、議題13（その他議題）において、インドの提案のもと委員会で議論が行われ、結果、各地域から原則2ヶ国が代表として参加するワーキンググループを立ち上げ、次回（第39回）世界遺産委員会までの間に推薦案件の評価や審査プロセスについて検討し、次回委員会に報告することが決議された。

第38回ユネスコ世界遺産委員会(2014年:ドーハ)における記載推薦及び拡張申請に係る審査結果

NO.	国名	遺産名(仮訳)	種別	勧告	決議	備考
1	ガーナ	Tongo-Tengzuk Tallensi Cultural Landscape(トンゴ・テングズク タレンシ族の文化的景観)	文化	記載延期	記載延期	新規
2	マラウイ	Mount Mulanje Cultural Landscape(ムランジェ山の文化的景観)	文化	記載延期	記載延期	新規
3	ザンビア	Barotse Cultural Landscape(バロツェの文化的景観)	文化	記載延期	情報照会	新規
4	イラク	Erbil Citadel(エルビルの城塞)	文化	記載延期	記載	新規
5	サウジアラビア	Historic Jeddah, the Gate to Makkah(ジェッダ歴史地区—メッカへの玄関)	文化	記載延期	記載	新規
6	UAE	Khor Dubai (Dubai Creek)(ホール・ドバイ(ドバイ・クリーク))	文化	不記載	記載延期	新規
7	中国	The Grand Canal(京杭大運河)	文化	情報照会	記載	新規
8	中国/カザフスタン/キルギス	Silk Roads: Initial Section of the Silk Roads, the Routes Network of Tian-shan Corridor(シルクロード:シルクロードの始点、天山回廊の道路網)	文化	記載	記載	新規
9	インド	Rani-ki-Vav (The Queen's Stepwell) at Patan, Gujarat(グジャラート州パータン、王妃の階段井戸)	文化	記載	記載	新規
10	イラン	Shahr-I Sokhta(シャフリ・ソフタ)	文化	記載延期	記載	新規
11	日本	Tomioka Silk Mill and Related Sites(富岡製糸場と絹産業遺産群)	文化	記載	記載	新規
12	ミャンマー	Pyu Ancient Cities(ピュー族の都市: ベイタノ・ミョ、ハリン、タイエ・キッタヤー(シュリ・クシエトラ))	文化	記載延期	記載	新規
13	韓国	Namhansanseong(南漢山城 -南漢山の古代要塞軍事拠点と文化景観)	文化	記載	記載	新規
14	タジキスタン/ウズベキスタン	Silk Roads: Penjikent-Samarkand-Poykent Corridor(シルクロード: ペンジケント—サマルカンド—ポイケント回廊)	文化	記載延期	情報照会	新規
15	チェコ/スロバキア	Sites of Great Moravia: The Slavonic Fortified Settlement at Mikulčice and the Church of StMargaret of Antioch at Kopčany(大モラヴィア王国の遺跡群:ミクルチツェの要塞化されたスラヴ人集落群とコプチャニにあるアンティオキアの聖マルガリタ教会)	文化	記載延期	取り下げ	新規
16	フランス	Decorated cave of Pont d' Arc, known as Grotte Chauvet-Pont d' Arc, Ardèche(ショールヴェ・ポン・ダルク洞窟として知られるポン・ダルクの装飾洞窟)	文化	記載	記載	新規
17	ドイツ	Carolingian Westwerk and Civitas Corvey(コルヴァイのカロリング朝時代の西構え及び都市遺構)	文化	情報照会	記載	新規
18	イスラエル	Caves of Maresha and Bet-Guvrin in the Judean Lowlands as a Microcosm of the Land of the Cave(洞窟世界の縮図:ユダの低地におけるマレシャおよびベト・グヴリンの洞窟群)	文化	記載	記載	新規
19	オランダ	Van Nellefabriek(ファン・ネレ工場)	文化	記載	記載	新規
20	スペイン	Cultural Landscape of Valle Salado de Añana(アニャナの塩溪谷の文化的景観)	文化	不記載	取り下げ	新規
21	トルコ	Bursa and Cumalikizik: the Birth of the Ottoman Empire(ブルサとジュマルクズク—オスマン帝国発祥の地—)	文化	記載延期	記載	新規
22	トルコ	Pergamon and its Multi-Layered Cultural Landscape(ペルガモンとその多層的な文化的景観)	文化	記載延期	記載	新規
23	アメリカ	Monumental Earthworks of Poverty Point(パーヴァティ・ポイントの土構造物群)	文化	記載延期	記載	新規
24	スペイン	Jaén Cathedral [Extension of the "Renaissance Monumental Ensemble of Ubeda and Baeza"] (ハエン被昇天大聖堂(「ウベダとバエーサのルネサンス様式の記念碑的建造物群」の拡張))	文化	不記載(拡張)	取り下げ	拡張申請
25	イタリア	Vineyard Landscape of Piedmont: Langhe-Roero and Monferrato(葡萄栽培景観地域:ランゲ=ロエロ、モンフェッラートとヴァルテリーナ)	文化	記載	記載	2012年記載延期
26	ロシア	Bolgar Historical and Archaeological Complex(ブルガールの史跡・考古群)	文化	記載	記載	2000年・2001年記載延期 2013年情報照会
27	アルゼンチン/ボリビア/チリ/コロンビア/エクアドル/ペルー	Qhapaq Ñan, Andean Road System(カパック・ニャン—アンデスの道路網)	文化	記載	記載	新規
28	コスタリカ	Precolumbian chiefdom settlements with stone spheres of the Diquís(石球を伴う先コロンブス期ディキス地域首長制集落群)	文化	記載	記載	新規
29	パレスチナ	Palestine: Land of Olives and Vines—Cultural Landscape of Southern Jerusalem, Battir(パレスチナ:オリーブとブドウの地 エルサレムの南部バティールの文化的景観)	文化	不記載	記載	

NO.	国名	遺産名(仮訳)	種別	勧告	決議	備考
30	ベトナム	Trang An Landscape Complex(チャンアンの複合景観)	複合	自然=記載延期 文化=記載延期	自然=記載 文化=記載	新規
31	ポルトガル	Arrábida(アラビーダ自然公園とその周辺)	複合	自然=不記載 文化=不記載	取り下げ	新規
32	メキシコ	Ancient Maya City and Protected Tropical Forests of Calakmul, Campeche [Extension and renomination of the "Ancient Maya City of Calakmul, Campeche"] (カンペチェ州、カラクムールの古代マヤ都市と保護熱帯林(「カンペチェ州、カラクムールの古代マヤ都市」の再推薦・拡張))	複合	自然=記載延期 文化=記載延期	自然=記載(拡張) 文化=記載(拡張)	拡張申請 文化遺産に自然遺産のcriteriaを追加申請

NO.	国名	遺産名(仮訳)	種別	勧告	決議	備考
33	ボツワナ	Okavango Delta(オカバンゴ・デルタ)	自然	記載	記載	新規
34	ベトナム	Cat Ba Archipelago(カッタ・バー群島)	自然	不記載	取り下げ	新規
35	インド	Great Himalayan National Park(グレート・ヒマラヤ国立公園)	自然	記載	記載	2013年情報照会
36	フィリピン	Mt. Hamiguitan Range Wildlife Sanctuary(ハミギタン山域野生生物保護区)	自然	記載	記載	2013年情報照会
37	中国	South China Karst (Phase II) [Extension of the "South China Karst"] (中国南部カルスト(「中国南部カルスト」の拡張))	自然	記載(拡張)	記載(拡張)	拡張申請
38	デンマーク	Stevns Klint(スティーブンス・クリント)	自然	記載	記載	新規
39	フランス	Tectono-volcanic Ensemble of the Chaîne des Puys and Limagne Fault (リマーニュ盆地およびピュイ火山群の火山構造体)	自然	不記載	情報照会	新規
40	ベラルーシ/ポーランド	Bialowieza Forest [Extension and renomination of "Belovezhskaya Pushcha / Białołęka Forest", Belarus/Poland] (ビャウオヴィエジャの森(「ベラヴェシユスカヤ・ブーシヤ/ビャウオヴィエジャの森」の再推薦・拡張))	自然	記載(拡張)	記載(拡張)	拡張申請
41	デンマーク/ドイツ	Wadden Sea [Extension of the "Wadden Sea" (Germany/Netherlands)] (ワッデン海(「ワッデン海」の拡張))	自然	記載(拡張)	記載(拡張)	拡張申請

表1

種 別	第38回世界遺産委員会 における新規記載件数	世界遺産一覧表記載資産数 2014(平成26)年6月25日現在
自然遺産	4	197
複合遺産	1	31
文化遺産	21	779
合 計	26	1007

表2

	諮問機関勧告	世界遺産委員会決議
記 載 (Inscription)	15	26
記載(拡張) (Approval)	3	4
情報照会 (Referral)	2	3
記載延期 (Deferral)	14	3
不記載 (Not to inscribe)	6	0
不記載(拡張) (Not Approval)	1	0
合 計	41	36
取下げ ^① (Withdraw)	-	5

危機遺産リスト

平成26年6月現在(第38回世界遺産委員会において更新)

	地域	国名	自然/文化	資産名	
1	アフリカ諸国	ニジェール	自然	アイル・テネレ自然保護区	
2		コートジボワール		コモエ国立公園	
3		コンゴ民主共和国		ガランバ国立公園	
4				カフジ ビエガ国立公園	
5				オカピ野生生物保護区	
6				サロンガ国立公園	
7				ヴィルンガ国立公園	
8				中央アフリカ共和国	マノヴォ ゲンダ サン フローリス国立公園
9				コートジボワール・ギニア	ニンバ山厳正自然保護区
10		セネガル		ニオコロ・コバ国立公園	
11		マダガスカル		アツィナナナの雨林	
12		エチオピア		シミエン国立公園	
13		タンザニア		セルース狩猟保護区	
14		ウガンダ		文化	カスビのブガンダ歴代国王の墓
15	マリ	トンブクトゥ			
16			アスキアの墓		
17	アラブ諸国	エジプト	文化	アブ メナ	
18		イラク		アッシュール	
19				サーマッラーの考古学都市	
20		イエメン		古都ザビード	
21		エルサレム		エルサレムの旧市街とその城壁群	
22		パレスチナ		イエス生誕の地：ベツレヘムの聖誕教会と巡礼路	
23				オリブとワインの地パレスチナ-エルサレム地方南部パティの文化的景観	
24		シリア		古都ダマスカス	
25				古代都市ボスラ	
26				パルミラ遺跡	
27				古都アレppo	
28				クラック・デ・シュヴァリエとカル・エッサラー・エル・ディン	
29	シリア北部の古代村落群				
30	インドネシア	自然	スマトラの熱帯雨林遺産		
31	ソロモン諸島		東レンネル		
32	アジア・太平洋諸国	アフガニスタン	文化	バーミヤン渓谷の文化的景観と古代遺跡群	
33				ジャームのミナレットと考古遺跡群	
34	ヨーロッパ・北米諸国	アメリカ	自然	エバーグレーズ国立公園	
35		グルジア		文化	バグラティ大聖堂とゲラティ修道院
36					ムツヘタの文化財
37		セルビア			コソボの中世建造物群
38	イギリス	海商都市リヴァプール			
39	ラテンアメリカ・カリブ諸国	ベリーズ	自然	珊瑚礁保護区	
40		コロンビア		ロス カティオス国立公園	
41		ホンジュラス		リオ プラタノ生物圏保護区	
42		ペルー	文化	チャン・チャン遺跡地帯	
43		ベネズエラ		コロとその港	
44		チリ		ハンバーストーンとサンタ・ラウラの硝石工場群	
45	パナマ	パナマのカリブ海側の要塞群：ポルトベロとサン・ロレンソ			
46	ボリビア	ポトシ市街			

Decision: 38 COM 8B.27

The World Heritage Committee,

1. Having examined Documents WHC-14/38.COM/8B and WHC-14/38.COM/INF.8B1,
2. Inscribes the **Tomioka Silk Mill and Related Sites, Japan** on the World Heritage List on the basis of **criteria (ii) and (iv)**;
3. Adopts the following Statement of Outstanding Universal Value:

Brief synthesis

The Tomioka Silk Mill dates from the early Meiji period. With its related sites including two sericulture schools and an egg storage site, it illustrates the desire of Japan, a traditional silk producer, to rapidly access the best mass production techniques. The Japanese government imported French machinery and industrial expertise to create an integrated system in Gunma Prefecture. It included egg production, silkworm farming and the construction of a large mechanised raw silk reeling plant. In turn, the Tomioka model complex and its related sites became a decisive component in the renewal of sericulture and the Japanese silk industry, in the last quarter of the 19th century, and a key element in Japan's entry into the modern industrialised world.

Criterion (ii): The Tomioka mill illustrates the early and entirely successful transfer of French industrial sericultural techniques to Japan. This technological transfer took place in the context of a long regional tradition of silkworm farming and silk reeling, which it profoundly renewed. In turn, Tomioka became a centre for technical improvements and a model that enshrined Japan's role in the global raw silk market at the beginning of the 20th century, and which bears witness to the early advent of a shared international culture of sericulture.

Criterion (iv): Tomioka and its related sites form an outstanding example of an integrated ensemble for the mass production of raw silk. The extent of the plant, from its initial design, and the deliberate adoption of the best Western techniques illustrate a decisive period for the spread of industrial methods to Japan and the Far East. Its large, late 19th century buildings provide an eminent example of the emergence of a style of industrial architecture specific to Japan, combining foreign and local elements.

Integrity

The integrity of the serial property's composition is good, illustrating the idea of a productive complex for an intermediate textile product: raw silk. The structural and functional integrity of each of the components is more uneven and at times difficult for the visitor to understand, notably the Takayama-sha sericulture school and Arafune cold storage. The landscape integrity, as it relates to the buffer zones, requires particular attention.

Authenticity

The authenticity of the components presented is generally satisfactory in terms of its various dimensions of structure, form and materials. The perceived authenticity is remarkable at the Tomioka mill, which has retained its complete textile machinery. The restoration activities at the Arafune site must remain within a strictly controlled framework in terms of its authenticity, which must remain archaeological in nature.

Protection and Management requirements

Each of the four sites comprising the serial property is protected by Japan's Law for the Protection of Cultural Properties. The main buildings are also protected as cultural properties of national importance. Under the application of this law, each of the sites is covered by a conservation and management plan already in place under the aegis of the cities and municipalities, including in the case of the privately owned Tajima Yahei (S2). Continuing this protection policy, the buffer zones correspond with a desire to control the urban and natural environments using measures that are, in theory, stringent. The management system relies on the competent services of the municipalities, the Agency for Cultural Affairs of the Gunma Prefecture and a series of scientific institutions involved in the regional silk heritage, and

volunteer associations. The Coordination Committee, established in spring 2012, is an overarching body responsible for coordinating the actual operation.

4. Recommends that the State Party give consideration to the following:
- a) Continuing to pay close attention to economic and urban development in the vicinity of the sites by strictly applying the planned protection measures for the buffer zones, and even consider strengthening them;
 - b) Giving deeper consideration to the archaeological nature of the Arafune site and the advantages and disadvantages of a protective roof;
 - c) Strengthening the cooperation between the local structures and the Central Coordination Committee in order to harmonise the various provisions in the management plans for each of the sites and to arrive at a unified Management Plan;
 - d) Undertaking research on the transmission of expertise by women, from France and within Japan itself, thanks to their roles as instructors and workers; and improve knowledge about the latter's working and social conditions.